

毒の状態です。吐いたものが気管につ
まると窒息死したり、道路などに寝込
んで凍死や交通事故に遭うことになり
ます。叩いてもつねついても反応がな
くなると「昏睡状態」で、死の危険があ
ります。

「一気飲み」で多量に飲むと「酔い」
を感じる前に致死量が小腸に移行し、
それ以上飲まなくても次第に吸収され
て血中濃度が上がって、急性アルコー
ル中毒を起こします。最悪の場合は死
につながります。

「酒は飲んで飲まれるな」と言い
ます。はじめは自分の適量に分からな
いので控えめに飲むことです。一気飲
みをしないこと。空腹で飲まないこと。
食べながら飲むこと（酒の肴をとるこ
と）。強い酒は薄めて飲むことです。
立てなくなったら危険信号です。

君たちが先輩になったら新入生にお
酒の強要をしないように！「お酒は
楽しく！」

プロフィール

(しげのぶ・たくそう)

◇昭和三十八年 広島大学医学

部医学科卒業

◇昭和三十九年 広島大学医学

部第二内科入局

◇昭和五十七年 保健管理セン

ター教授

全国大学保健管理協会理事

全国大学保健管理協会中国・

四国地方会代表世話人

エイズ — 死の病、しかし防げる病 —

教育学部幼児保健学講座 ◆ 清水 凡 生

エイズ(AIDS) 即ち後天性免疫不全
症候群 (Acquired Immunodeficiency
Syndrome) が最近大きな社会問題に
なっている。また、このように大学広
報誌の新入生特集号で取り上げられる。

その理由は、この疾患が死につながる
ものであるためであるが、それと同時
に、この疾患が的確な予防方法を講ず
ることによって確実に防ぐことができ
るものだからである。

本疾患の最初の症例は一九八一年に
カリフォルニア州から報告されたが、
かつてアフリカ原住民に感染していた
ものが、ここ数十年欧米を中心に爆発
的に流行していったものであるという。
我が国においても最近急増しており、
決して他人事ではなく、対岸の火事で
もない。エイズから身を守るためにそ
の実態を十分理解することが必要である。

免疫機能が侵され重症、頻 回な感染によって死亡する

エイズはヒト免疫不全ウイルス(HIV:
Human Immunodeficiency Virus) の
感染によって、免疫機能の主役を演ず
るリンパ球の機能が障害され、種々の
重症感染症を頻回に繰り返し遂には死
にいたるといふ疾患である。発病から
死にいたる間には、感冒様症状に始ま
り、全身リンパ節腫大、皮膚の発疹、
肺炎、羸瘦、さらに脳神経細胞の変性
による痴呆など極めて多彩な症状を呈

する。

日常生活では感染しない、主と して性交渉によって感染する

このウイルスは一般のウイルスとは
異なり、飛沫感染などによるものでは
なく、直接血液または精液を介しての
み感染する。従って、ウイルスを含ん
だ血液または血液製剤を注射するとか、
感染者に用いた注射針を用いて他の人
に注射した場合、および性交渉によっ
て感染する。

我が国では、血友病の治療のために
輸入された血液凝固製剤にこのウイル
スが混入していたことよって感染し
た不幸な人々が患者・感染者の多くを
占めるが、現在ではこの製剤の問題は
解決されており、最近の感染者は、性
交渉および薬物乱用の際の注射針の使
い回しによるものが主である。

エイズが報告された初期のころには、
同性愛が感染の主な原因といわれた。
確かに、同性愛は感染の危険率におい
ては著しく高いが、患者・感染者の数
のうえで、異性間性交渉によるもの
の方がはるかに多い。特に、売春を含
む不特定な相手との性交渉が危険である。

患者・感染者 我が国においても急増

エイズは、感染から発病までの期間



が著しく長く、数
年から十数年に及
ぶと考えられてい
る。そのために発
病した患者数と感
染者数の間に大きな差があるが、図に、
我が国における血液凝固製剤による
と思われる症例以外の患者数と感染者数
の年次推移を示した。

いづれも等比較的に増加しており、
現在では、累積患者数二百六十七名、
感染者数千四百十名となっている。ま
た、累積死亡者数は三百七十四名に及
んでいる。推計学的研究によると、一
九九二年の患者数に対して一九九七年
には、患者数が一九九二年の日本国籍
八・六倍、外国籍三一・四倍になると
いう。

ワクチン、治療薬は望み薄

本症候群が最初に報告された後、二
年で病因がウイルスであることが明ら
かにされ、しかもそれが分離されてい
る。種々の難病のことを考えると、病
因解明は異例の早さであった。しかし、
そのウイルスは極めて特異的性質を有
し、そのために、感染を予防し得るワ
クチンの開発は悲観的である。また、
治療薬も多くのものが治験されている
が、確実に有効なものはまだ無い。

確実な予防法は「コンドーム

ワクチンなどの医学的予防法に期待
ができない現状では、感染を物理的に
防ぐ以外に方法が無い。
感染原因は、数のうえで不特定相手